

聖餐式 2005.10.11 聖霊降臨後第 19主日

特 禱 特定 23

旧約聖書 イザヤ書 25:1-9

日課詩篇 第 23 篇

使徒書 フィリピの信徒への手紙 4:4-13

福音書 マタイによる福音書 22:1-14

聖霊降臨後第 19主日特禱 特定 23

わたしたちの避けどころ、力であり、また信仰の源である神よ、どうか主の教会が信仰をもって献げる祈りに耳を傾け、真心をもって願い求めることをかなえてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

旧約聖書 イザヤ書 25:1-9

主よ、あなたはわたしの神、わたしはあなたをあがめ、御名に感謝をささげます。あなたは驚くべき計画を成就された、遠い昔からの揺るぎない真実をもって。あなたは都を石塚とし、城壁のある町を瓦礫の山とし、異邦人の館を都から取り去られた。永久に都が建て直されることはないであろう。それゆえ、強い民もあなたを敬い、暴虐な国々の都でも人々はあなたを恐れる。まことに、あなたは弱い者の砦、苦難に遭う貧しい者の砦、豪雨を逃れる避け所、暑さを避ける陰となられる。暴虐な者の勢いは壁をたたき豪雨乾ききった地の暑さのようだ。あなたは雲の陰が暑さを和らげるように、異邦人の騒ぎを鎮め、暴虐な者たちの歌声を低くされる。万軍の主はこの山で祝宴を開き、すべての民に良い肉と古い酒を供される。それは脂肪に富む良い肉とえり抜きの酒。主はこの山で、すべての民の顔を包んでいた布と、すべての国を覆っていた布を滅ぼし死を永久に滅ぼしてください。主なる神は、すべての顔から涙をぬぐい、御自分の民の恥を地上からぬぐい去ってください。これは主が語られたことである。その日には、人は言う。見よ、この方こそわたしたちの神。わたしたちは待ち望んでいた。この方がわたしたちを救ってください。この方こそわたしたちが待ち望んでいた主。その救いを祝って喜び躍ろう。

日課詩篇 第 23 篇

- 1 主はわたしの牧者 // わたしは乏しいことがない
- 2 神はわたしを緑の牧場に伏させ // 憩いの水辺に伴われる
- 3 神はわたしの魂を生き返らせ // み名のゆえにわたしを正しい道に導かれる
- 4 たとえ死の陰の谷を歩んでも、わたしは災いを恐れない // あなたがわたしとともにおられ、あなたの鞭と杖はわたしを導く
- 5 あなたは敵の見ている前でわたしのために食卓を整え // わたしの頭に油を注ぎ、わたしの杯を満たされる
- 6 神の恵みと慈しみは、生きていく限り、わたしに伴い // わたしは永遠に主の家に住む

使徒書 フィリピの信徒への手紙 4:4-13

主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい。あなたがたの広い心がすべての人に知られるようになさい。主はすぐ近くにおられます。どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事に

つけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。そうすれば、あらゆる人知を超える神の平和が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスによって守るでしょう。終わりに、兄弟たち、すべて真実なこと、すべて気高いこと、すべて正しいこと、すべて清いこと、すべて愛すべきこと、すべて名誉なことを、また、徳や称賛に値することがあれば、それを心に留めなさい。わたしから学んだこと、受けたこと、わたしについて聞いたこと、見たことを実行しなさい。そうすれば、平和の神はあなたがたと共におられます。さて、あなたがたがわたしへの心遣いを、ついにまた表してくれたことを、わたしは主において非常に喜びました。今までは思いはあっても、それを表す機会がなかったのでしょう。物欲しさにこう言っているのではありません。わたしは、自分の置かれた境遇に満足することを習い覚えたのです。貧しく暮らすすべも、豊かに暮らすすべも知っています。満腹していても、空腹であっても、物が有り余っていても不足していても、いついかなる場合にも対処する秘訣を授かっています。わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしにはすべてが可能で

福音書 マタイによる福音書 22:1-14

イエスは、また、たとえを用いて語られた。「天の国は、ある王が王子のために婚宴を催したのに似ている。王は家来たちを送り、婚宴に招いておいた人々を呼ばせたが、来ようとしなかった。そこでまた、次のように言って、別の家来たちを使いに出した。『招いておいた人々にこう言いなさい。「食事の用意が整いました。牛や肥えた家畜を屠って、すっかり用意ができています。さあ、婚宴においでください。」』しかし、人々はそれを無視し、一人は畑に、一人は商売に出かけ、また、他の人々は王の家来たちを捕まえて乱暴し、殺してしまった。そこで、王は怒り、軍隊を送って、この人殺しどもを滅ぼし、その町を焼き払った。そして、家来たちに言った。『婚宴の用意はできているが、招いておいた人々は、ふさわしくなかった。だから、町の大通りに出て、見かけた者はだれでも婚宴に連れて来なさい。』そこで、家来たちは通りに出て行き、見かけた人は善人も悪人も皆集めて来たので、婚宴は客でいっぱいになった。王が客を見ようと入って来ると、婚礼の礼服を着ていない者が一人いた。王は、『友よ、どうして礼服を着ないでここに入って来たのか』と言った。この者が黙っていると、王は側近の者たちに言った。『この男の手足を縛って、外の暗闇にほうり出せ。そこで泣きわめいて歯ぎしりするだろう。』招かれる人は多いが、選ばれる人は少ない。」

代 捧

- 新型コロナウイルス感染症に苦しむ人々のため、またその一日も早い収束のため。
＜東京教区＞ 東京諸聖徒教会、外濠教会グループ（協議会、牧師協議会）のため。
- 10月の信施奉獻先 薬物依存リハビリ施設の働き のため。
＜東京聖三一教会＞
- オルターギルド・フラワーギルド・アッシャー のため。
- 週報・事務担当のため。
- 病床にある方々